

「令和7年度未来博士工房学生博士賞授賞式・成果報告会・懇親会」開催

令和8年3月17日

報告：理工学部校友会事業委員会 副委員長
わたちの会 会長 鈴木 弘幸

年度末も押し迫った令和8年3月14日（土）、理工学部校友会が支援している日本大学理工学部の「未来博士工房」活動において、学生博士賞授賞式・成果報告会・懇親会が開催されました。

★「未来博士工房」とは

日本大学理工学部が、学生達の本来持っている自律性と創造力を呼び覚まし、実践力と学問的能力を発展させる場として開設しているもの。2007年（平成19年）、文部科学省の特色ある大学教育支援プログラムの特色GP（Good Practice 体験型実践教育）として採択された。学科と紐づく次の8つの工房（学科名）が設置されている。

ブリッジ工房（土木）、交通まちづくり工房（交通システム）、フォーミュラー工房（機械）、ロボット工房（精密機械）、航空宇宙工房（航空宇宙）、電気モノ・コトづくり工房、PC工房（電子）、物理学プロジェクト工房（物理）

★「学生博士賞」とは

正式名称は、「日本大学理工学部学生博士賞」と称し理工学部長名で表彰。日本大学理工学部の卒業証書と同じ重厚な装丁で、未来博士工房の各工房における学業及び工房活動において優秀な成績を修め、担当したプログラムで顕著な成果を修めた学生に授与される。

まず、13時00分より日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館6階CSTホールにて、未来博士工房学生博士賞授賞式が執り行われ、轟理工学部長より受賞者代表に書状が授与されました。交通システム工学科関係では、「交通まちづくり工房」が開設されており、今年度は学科の3年生19名が受賞しました。その後、学部長挨拶と理工学部校友会会長からの祝辞をいただき、記念撮影が行われました。



↑「交通まちづくり工房」の3年生たちへの学生博士賞授与の様子（画面左側で起立しているのが交通まちづくり工房の学生たち）



↑ 轟学部長より学生博士賞の授与
(代表 1 名)

記念撮影の様子→



14 時 00 分からは未来博士工房の成果報告会となり、「交通まちづくり工房」からは実施されている 5 つのプロジェクト（交通安全、国際まちづくり、地域活性化、コンクリートカヌー、鋼橋）の中から、交通安全プロジェクトの活動報告「習志野台 8 丁目における交通安全向上への取り組み」がありました。この活動は国交省から「地域の合意形成を円滑に進めた先進事例の一つ」として紹介*1 されるほどの成果をあげているもので、10 年ほど前から受け継がれてきたプロジェクトとして、まさに大学での学びを地域還元した事例となっています。（*1 URL : <https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryuu/tnn/tnn1310.htm>）

成果報告会終了後の 16 時 30 分から、1 号館 2 階カフェテリアにて懇親会が開催されました。未来博士工房の学生たちや指導された先生方、理工学部校友会（OB・OG）の方々が集まり、本会の共催者である理工学部校友会事業委員会委員長の挨拶に続き、元理工学部校友会会長の深澤豊史氏（わだちの会 50 周年時の理工学部校友会会長で、50 周年記念事業開催時にご挨拶をいただきました）による乾杯の発声により、歓談へと進みました。交通システム工学科関係では、轟学部長、下川理工学部校友会交通部会長、峯岸学科主任、未来博士工房担当教員の吉岡先生と、学生博士賞を受賞した 3 年生たちが参加し、美味しいお酒と料理を味わいながら盛り上がっていました。料理が思いのほか早く食べつくされたため、予定より 1 時間ほど早く、事業委員会副委員長の鈴木による三本締めにて終了しました。



←交通まちづくり工房の成果発表



↑ 懇親会での歓談の様子

未来博士工房の支援は、理工学部校友会の主たる事業です。その部会組織であるわだちの会も未来博士工房の支援に関わっているということであり、その中の交通まちづくり工房は、わだちの会と特に密接に関連があります。未来博士工房活動のキーワードの一つである“地域還元”を果たしているこの活動を、理工学部校友会・わだちの会は、今後も持続的に支援していきます。

会員の皆様、どうぞよろしくお願いたします。

以 上